

新潟市アグリパーク要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	令和6年度 評価指標	令和6年度実績	評価	コメント
	入場者数	最終年度(R9)までに19万人以上/年 ※令和6年度目標 190,000人	196,889人	A	指標を上回った。
		宿泊施設の稼働率 : 最終年度(R)までに30%以上 ※令和6年度目標 30.0%以上/年	42.5%	A	指標を上回った。
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 : 最終年度(R)までに24,000人以上/年 ※令和6年度目標 24,000人	29,506人	A	指標を上回った。
	就農支援	体験イベント及び就農支援プログラムの受講者 : 最終年度(R9)までに800人以上 ※令和6年度目標 800人	976人	A	指標を上回った。
	6次産業の推進	・食品加工室利用回数 : 400回以上/年 ・食品加工室利用人数 : 1,000人以上/年	・利用回数: 454回 ・利用人数: 1,086人	A	指標を上回った。
	広報の充実	・HPの情報更新 : 240回以上/年 ・SNSによる発信 : 360回以上/年	・HPの情報更新: 397回 ・SNSによる発信: 536回	A	指標を上回った。
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	98.0%	A	指標を上回った。
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字。
		利用者ニーズを踏まえた開館日数・開館時間等の設定による効率的な運営	12月から3月までは(冬休み、春休みを除く)A.S.Pがない毎週水曜日を事業を行わない日として設定	B	指標のとおり。
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	適正に実施	B	指標のとおり。
業務	安心・安全の確保	・防災訓練: 年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	・防災訓練: 2回 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアル作成済	B	指標のとおり。
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 : 1回以上/年	3回	A	指標のとおり。
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 : 90%以上	100%	A	指標を上回った。
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ : 延べ1,000人/年以上	1,022人/年	A	指標を上回った。
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 : 延べ50人/年以上	0人	C	指標を大きく下回った。
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標のとおり。
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 : 1人あたり2回以上/年	2.9回/年	A	指標を上回った。
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 : 90%以上	93.3%	A	指標を上回った。

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和6年度の総入場者数は196,889人で前年度比100.7%、1,327人の増となった。開園より10周年を迎えて実施した「周年祭」を盛大に開催するとともに、月次イベントの拡充により多くの来園者を迎え入れることができた。また、来園者からはアンケート結果より高い満足度が得られた。宿泊者は4,585人で前年比514人と大幅に増加した。全国各地からの宿泊者があり、宿泊施設としての認知度向上がうかがわれる。

教育ファーム関係では、学校は延べ181校、8,671人が来園した。前年度と比較して、利用学校で5校人数で311人増加した。小学校の利用割合が最も高く、全体の76%を占めている。その他の学校種別では幼・保育園の10%、中学校の4%、特別支援学校の8%、その他(高校等)2%であり、小学校の学年別では小学校2年生が53%と最も多かった。参加した学校の評価と満足度は引き続き高く、アンケートでは100%の学校から「農業体験学習のねらいは達成できた」という評価を得た。一般の利用者数は20,835人で、農と食に関わる「野菜収穫」「餅やり」「ピザ作り」などの体験や地域の特色と絡めた体験イベントの満足度が高かった。今後の課題として、学校関連ではSDGsを関連付けたキャンプサイトの活用と新型米粉製粉機の導入に伴う米粉プログラムの改善など、また一般向け体験においてはキャンプサイトの有効活用と団体利用企画の展開について、アグリパークならではの利点を活かして実現に取り組みたい。

食品加工支援事業では、食品加工の基礎を学ぶ講座を前年並みの57回開催し延べ380人の受講があり、定員に対する受講率は前年並みの83%と高率であった。また講座以外の加工室利用は延べ397回706人が利用した。利用者数は前年並みであったが、利用回数が前年比33回増加し、施設の活用が高まった。なお加工室利用者の職業は81%が農業関係者であり、農業者の6次産業化に向けた施設利用の高まりがうかがえる。商品化された製品は10品、一次加工品が1品、デザイン作成が15品であり、加工技術の相談回数は112回であった。今後も地元農産物を使用した商品の新規開発支援のためJAや教育機関等と連携を図るとともに、新型米粉製粉機による微細製粉の利用拡大と米粉加工の技術展開について可能性を探るなど6次産業化支援に努めていきたい。

就農支援事業では、常設の就農相談窓口で相談が18人(新規就農3人、就農希望13人、その他2人)からあった。就農体験研修には、野菜栽培コース6名、果樹栽培コース2名が受講した。また、経営管理力の育成を目的とした農業経営研修には新規就農者など38名が参加した。規模拡大など経営に関することや農業法人の設立と求人等、相談内容が多様化しており、県や市(農業活性化研究センターほか)及びJAとの情報共有と連携強化が一層重要となっている。

施設の特徴を生かした体験イベントを毎月開催したが、特に節目を迎えて「10周年祭(6月)」を盛大に開催するとともに、「収穫祭(10月)」「ふるさと祭り(1月)」を大イベントと位置付け、体験と美味しさを通して農業の理解を深め郷土愛を育む内容を基本に実施して好評であった。広報の充実では、紙媒体のほかホームページやSNSにより積極的な情報発信に努めるとともに、幅広い年齢層への周知浸透を図るため前広にプレスリリースを行うことによりテレビ各局や新聞等で複数回報道され集客にも繋がった。また、SDGsの観点から余剰収穫物を地元のフードバンクや子ども食堂に提供した。次年度においても、直売所やレストランは元より南区観光農園等との地域連携をより強化して各種施策を積極的に展開していくとともに、より市民に近く親しみやすい体験施設を目指した運営を行い、利用者数の安定的増大とともに、農業振興と地域の活性化などの機能発揮に努めるものとする。

所管課による総合評価(所見)

新潟市アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。特に、入場者数は目標の年間19万人を6千人以上も上回り、宿泊施設の稼働率も40%を超えるなど、施設利用の促進が図られていることに加え、利用者の満足度はほぼ100%であり、魅力的なサービスが提供されていることを高く評価する。一方で、指定管理収支が赤字となっているが、開業から10年以上が経過し、今後の維持管理に関する経費の増加も見込まれることから、自主事業の展開による新たな収入の確保など、施設運営が持続可能なものとなるような創意工夫を期待する。また、施設内の各種作業についての障がい者の受付に関して、コロナ禍以後は実績がないため、障がい者施設等の実情を踏まえた取組が求められる。令和6年度は、新潟市アグリパーク開設10周年の節目だったが、全国的なメディアで取り上げられたほか、新潟市食育・花育センターや本間文庫にいがた食の図書館とともに「食文化ミュージアム」に認定された。施設への注目度がより一層高まり、更なる展開も期待されているため、今後も、これまで本施設の運営で蓄積されたノウハウを最大限に活かしながら、新潟市の食と農の振興や地域活性化に取り組んでいきたい。